

授業科目名： 教職実践演習（中等）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名 天利・丸本・渋谷・手島・ 高木・大和 担当形態 オムニバス
実務内容 （実務家教員の場合）	中学校・高等学校教諭としての勤務経験を持つ教員が、教育現場における課題を中心に据え、課題について教員・学生がともに検討を行い、その解決を図るためにグループディスカッションや模擬授業を行い、その成果等を発表・討議する。		
科 目	教職に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職実践演習		
「学位授与の方針」との関係 C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。 E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。			
授業のテーマ及び到達目標 授業の到達目標及びテーマ (1) 教育に対する使命感や情熱を持ち、常に子どもから学び、共に成長しようとする姿勢を身につける。また、高い倫理観と規範意識の向上を図り、困難に立ち向かう強い意志を持ち、自己の職責を果たすことができるようにする。 (2) 教員としての職責や義務の自覚に基づき、目的や状況に応じた適切な言動をとることができるようにする。また、組織の一員としての自覚を持ち、他の教職員と協力して職務を遂行し、保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築くことができるようにする。 (3) 子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、適切な指導を行なうことができるようにする。また、子どもとの間に信頼関係を築き、学級集団を把握して、規律ある学級経営を行なうことができるようにする。 (4) 教科の内容の理解をはじめ、学習指導の基本的事項（教科等の知識や技能など）や板書、話し方、表情など授業を行なう上での基本的な表現力を身につけさせる。また、生徒の反応や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態等を工夫することができるようにする。			
授業の概要 本科目は教職課程以外の科目の履修やさまざまな活動を通じて学生が身につけた資質・能力が、教員として最小限必要な資質・能力として有機的に統合され、形成されたかについて、本学の到達目標等に照らして最終的に確認するものであり、「学びの軌跡の集大成」として位置付けるものである。学生が将来教職に就く上での課題を認識し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い教師力の向上と定着を図る。そのために、教員として求められる次の4つの事項を含め、授業の企画、立			

案、実施に際して教育委員会、学校現場、関係諸機関との緊密な連携・協力を求めるように留意する。

- (1) 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項
- (2) 社会性や対人関係能力に関する事項
- (3) 生徒理解や学級経営等に関する事項
- (4) 教科内容や指導力等に関する事項
- (5) 社会人としての基礎・基本から学級づくりや授業のポイント、保護者対応の仕方などについて専門書やボランティア活動を通して学んでおくこと。
- (6) アクティブ・ラーニングの手法も用いて実施。

授業計画

授業計画

- 第1回：“共生”の理念に基づいた「教職実践演習が目指すもの」と授業計画を理解する。
- 第2回：教職科目の履修履歴及び教育実習終了による成果と課題についてグループディスカッションを通して確認し、自覚を深める。
- 第3回：学校教育の意義と教育職員の身分、服務義務と法的根拠を学ぶ。
- 第4回：生徒の最近の傾向を学び、発達課題を考える。それを基に、ロールプレイングを通して個々の子どもの特性や状況に応じた対応を修得しているか確認をする。
- 第5回：事例研究、ロールプレイングを通して、教育現場を巡る様々な課題への対応力を修得しているか確認する。(危機管理について)
- 《テーマ1》いじめ、不登校、暴力行為、学級崩壊の実態の理解と対応力
- 第6回：《テーマ2》保護者、地域社会の教育力及び価値観の変化と対応力
- 第7回：《テーマ3》これからの学校教育への期待
- 第8回：これからの教員に求められる資質・能力についてグループディスカッションを通して確認する。
- ギガスクール構想に伴い、ICTの活用が各教科指導に求められている。このことから、教材開発の柔軟な発想とともに、「伝える力」「説明する力」の育成を図る。
- 第9回：教育実習の経験を基に、学級担任の役割や実務、他の教職員との協力の在り方等を修得しているか確認する。
- 第10回：学級経営案を作成し、グループディスカッションを通して担任としての質の向上を図る。
- 第11回：ロールプレイングを通して社会人としての基本(挨拶や言葉遣いなど)が身についているか、保護者や地域との連携・協力の重要性を理解しているか確認をする。
- 第12回：教材開発の工夫や、学習形態、指導と評価等に留意した学習指導案の作成を通じて、学習指導の基本的事項(教科等の知識や技能など)を身につけているか確認する。(1)
- 更に学び方の工夫として、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニングの手法)の意義や方法を体験し、指導力の向上を図る。

第13回：学習指導案の作成（2）

第14回：模擬授業の展開と学生間の相互評価を実施し、課題を共有する。

第15回：教員としての表現力や授業力、子どもの反応を活かした授業づくり、効果的な集団活動を育む指導法を身につけているかを相互評価する。また、「魅力ある教師とは何か」について考えをまとめる。

定期試験

スクーリングでの学修内容

（主に、1回～15回の内容を含む。）

教科書

なし

参考文献

田中 洋一『教師のためのスタートブック 中・高等学校版』 第一法規

学生に対する評価

スクーリング評価・科目修得試験で総合して評価する。